

九月の保育所

鈴 木 と く

空を仰ぐと、なんとなく円の深みが感じられて、鱗雲のひろがり見ると秋を覚えるのですが、残暑の酷しさに加えて、真夏の保育の疲労が、保育の体の中にも、心の底にも、滲を残している保育所の九月は、学期と云う区切りもないまゝに、涼風のかよいに、日焼の児等の面影を想う、の気持の転換もなく迎える向が多いのではないかと思います。

私達保育は、先づ第一に、この事に意をいたしましょう。何とかして、自分の気持の上に、季節の感覚だけではない転換を、かもし出す様に工夫したいものです。

この事が、九月以降の保育に、どんなに影響するかを考えて、人手も足りず、時間もなく、経済も許さないから駄目と、投げすてないで、幼児の為に、と思つて積極的な方法をあみ出したいものと思つています。

☆ 九月を迎える保育所の幼児

先の様に、保育は、夏中、三、四日の交代休暇はとつても、気持

の上では、学校や幼稚園の先生のような休養はないのですから、夏休みのない保育として、保育所に集る様々の幼児と向い合せてみますと、

1、夏休みのない幼児……夏休みのない保育

2、間で時々欠席した幼児……前同

3、長期欠席（即ち夏休みをした幼児）……前同の様になります。1は、考え方により、又は夏の保育の如何によつて、問題であつたり、なかつたりと思ひますが、本質的には、精神的福祉に欠けた者同志として、其の頃の生活の展開に、多くの問題をはらむのではないかと思います。2、3は、幼児の方に、生活や気分の変化があつて、保育にはない場合ですから、此処にも、保育の深い反省を伴つた、幼児の迎え方が必要となります。

1の幼児には、生活の乱れは余りないのですが、両親の愛情とか家庭の雰囲気、夏でなければ経験出来ない情緒的雰囲気には恵まれずに過しています。2、3の幼児は、毎年きまつて云はれる様に、生活の乱れがあります。

食生活……買喰い。不規則食事、好きなだけ食べる。

睡眠生活……夜更かし、朝寝坊。午睡をしない。時間が不規則。

其の他……大人本位の娯楽に伴はれる事から受ける好ましくな

い影響。身だしなみ、行儀等大人の生活の様々な不
しだらさからうける影響。

等は、はつきりしているのですが、その他にも、身のまはりの事
が、自分の力で出来か、つているのが逆もどりしたり、つきかけた
情操や健康上のよい習慣が、壊されたり、忘れられたり、我ま、や
甘つたれや、人見知りが増長したりしています。

幼児全体を健康上からみて、欠席をした幼児の中には、お腹をこ
わしやすくなつたり、何となく疲れ方が早くなつたりする者や、夏
前に自然陽転したり、虚弱体質だつたりした者の、夏中の生活状態
や、様子が、わからない事等があります。

これらの事は、夏中の「よい子のカレンダー」や「健康カード」
等で、お家との連絡をとつた方は、九月に入つてから、夏中の一人
々々の幼児の生活や、健康の概況がわかると思いますが、何も計画
しなかつた方は、九月の始めに、これらの健康調査をする必要があ
ります。

保母や、幼児の、こうした状態を、あらかじめ考えの中に入れて
さて之からの保育所の生活を、どの様に計画したらいい、かと考えて
みましょう。

☆ 保育所全体として考えたい事

重復する様ですが、先の事から考えられることを、箇条書にして
みますと、

- 1、保母と幼児の気分転換を計る保育。
- 2、乱れた生活の規律を、徐々に良い方向へむける保育。

3、消えそうな良習慣のつけないおしを含めた保育。

4、残暑から秋にかけての保健上の注意と、秋に体を鍛える為の
準備を考慮した保育。

5、保育所給食を秋の健康保育に十分生かせる様に工夫した保育
6、九月の前半は、季節感としては、夏の続きであり、前半年に
経験した内容の反復期である事を考慮に入れた保育。

7、午前中と午後、云いかえれば、保育所の生活に含まれる幼稚
園（教育の意味で）の時間と、家庭に代る時間との扱い方を
季節の変わり目として、注意の行きと、いた保育。

8、毎年起的自然の暴威と、それに関係した、自然的、社会的の
事象について、単なる観祭でなく、生活上の事として感得す
る様な保育。

9、社会の好ましくない情緒的雰囲気忘れて、情操の豊かさを
感じる様な雰囲気を作る保育。

10、家庭と特別に連絡を密接にしなければならぬ幼児の保育に
ついて、九月以降の大体の案を計画し、又一般的に、この月
に連絡を必要とする保育上の事項について、家庭連絡の方法
を考えておく事。

等でありましょう。

☆ 一日の生活プログラム中で特に注意したい事。

登所の最終時間を、何時で区切つて、家庭と連絡するかを考えま
しょう。朝早い幼児は、六時過から、七時頃に保育所に来ますと、
八時半から九時迄に来た幼児と、三時間から一時間の差があり、保

育所によつてこの差が短かかつたり、殆どなかつたりします。この登所時間の区切りは午前のおやつ、或は、ミルクの時間を決める上に必要です、午前中の、少休息を、何時頃にするかにも必要です。登園の最終時間が決まりますと、次の展開を、色々と決めて行きます。二、三人の例外はあつても、決めて家庭に知らせる事が出来るのではないかと思います。そして、両親の方にも、夏中の、だらけた生活時間の立直しを、朝の時間から始められる様に、幼児を通して指導出来る事でしょう。

午前中の少休息と、午睡については、手のかゝる事であり、面倒な事ですが、之については、「なぜ必要なのか？」と、幾度も疑問を持つて、その答を、自分で出して頂きたいと思ひます。本当に幼児の為に必要だと納得出来れば、一日のプログラムに必ず入れたと思ひます、方法についても考え出せます。殊に残暑の時でもあり、集団生活に戻つた為の精神的疲労も多いのですから、休息のさせ方を種々考えてみましょう。

以上三つの時間が決まれば、朝のおやつ（ミルク或は果汁）の時間、食事準備開始の時間等も決つてゆきます。

☆ 健康保育の面から

気にかゝる事は体重の増減です。七月には全幼児が計つてあると思ひますが、八月はまち／＼ですから、九月に揃つたら早速測定をして、増減を見ましよう。

夏中にかゝつた病氣についても、知つておきたいものです。

個々の様子を見た上で、夏前から始めた——或はこの月から始め

る乾布摩擦、或は裸遊びを続けて行きました。日光浴の時間や、方法は、必ず医者と相談して、行うことを忘れない様に。外あそびの時まだ帽子をかぶる様に、日蔭に時々入る様に、適当に注意を与えましよう。

健康上、必ず注意すべき活動の後の休息については、前にプログラムの注意でのべましたから、も一つ必要な栄養補給について、この月に注意したいことは、副食物の調査と合せて、家庭で、喜んで食べる食品や料理の調査をしておきたい事です。これらを給食献立を作成する上の、参考としまししよう。又家と連絡して、野菜を主とする日、肉或は魚等を主とする日を決めて、家で作る副食と、保育所の副食が、余りかち合はない様な工夫をして見ましよう。食事は、大きな楽しみの一つであることを思つて、食卓の清潔、装飾、位置等に、心くばりと変化を与える様にしまししよう。

☆ 躰の面から

個人の生活習慣、団体生活の規律や秩序や礼儀について、どんな面がくずれ、どんな事が後退したかを、組全体として様子を見ましよう。各年令によつて、計画する事、方法等も、七月迄の実施内容や、幼児の状態で、夫々違うこと、思ひますが、

食前の手洗い。食後のうがい。

用便後の紙使用（女児）と手洗い。

各自の手拭きの始末や、忘れずに持つて来る事。

食事の作法や、挨拶、食器の扱い方。

脱いだ着物の始末や、着脱の自立の事。

洋服の端、エプロン、指、手に持った物何でも口に入れてしまふる。

履物のぬぎすて、汚い足のまゝで屋内に入る。

等は、も一度、保母の心くばりを必要とする事柄ではないかと思ひます。

これらの事は、あながち、二、三才の年少児に限られた事ではないと思ひます。年長組も、自分でどれだけするか、注意して見てあげましょう。

順番を守る。物の置場を守る。使つたあと決つてゐる場所へ戻す交代で使うことや、共同して使うこと。

等についても、遊びの間に様子をみて、どんな方法で、よい方向にむかわせたらよいかを考えて行きたいと思ひます。

この様に、保健上の心構えや、生活指導の反復の面の要点が出来たら、これらの事が、遊びの計画の中で行えるものと、全然別個の系列で行うものを書きわけてみましょう。

生活習慣の中では、大体、三才児迄はこの別個の系列とする面が多く、四、五才児は、単元の経験内容の中で、關係して取扱えるものが多く出て来る事だけ申し添えます。

☆ 午前中の保育の中で取あげたい事

先に保育所全体として考えたい事の1に、保母と幼児の気分転換の事をあげましたが、どんな事でそれを行ひましょうか。夫々の保育所の設備、環境で違ふことは勿論ですが、

保育室の模様替え。保育必需品、玩具等の更生。

夏の思い出の、おみやげ、採集物、製作物の展覧会や、説話遊び等の計画はどうでしょうか。

幼稚園も小学校も、二学期が始るから、その為に保育所も、と云う丈でなく、大人の世界も、子供の世界も、季節的に、或は、時間的に、ゆるんだ後に来る、生き／＼した生活のとりもどしの基点と云う意味でも、又は繰返す生活のリズムの区切りと云う事からも環境のマンネリズムを払いのける工夫は必要だと思ひます。

整理戸棚、保育用具、玩具置場、机の配置、壁かけ、製作品展示の場所、楽器、こつこ遊びの用品等、

の位置をかえてみましょう。これは、年令が小さければ、殆ど、保母の手で行うのですが、年長になれば、この為の、相談、手伝い、作業が計画されましょう。又、そうする様に、はこびたいものです。

住みよく、簡潔に、美しく、このことを経験させ、生活させたいと思ひます。

乳児室があれば、ベッドの位置、脱衣箱の置場、スペースのとり方等の変化も必要と思ひます。

道具箱、整理戸棚の、整理整頓、修理、絵の具入れ、ボスターカラーや指絵をする時の下敷きにする大きな紙を、綺麗につくりなおす。画架を修繕したり、塗りかえたり、粘土板、絵筆の数しらべや掃除等、分業作業や共同製作の計画を、こうした生活用具の美化の中にとり入れることは、困難でしょうか。カリキュラムにもる生活経験内容の準備は、すべて、保母がするものと思ひたくありません。不手ぎはでも、出来上りがつたなくても、大人との共同作業で

しあげる喜び、自分達の環境を自分達の小さい力を合せてつくる喜びを、その年令なりに味は、せてあげたいものです。

こうした事は、八月末から九月始めにかけて計画したい事です。毎年各地を襲う颱風について、保育所の幼児の、社会、自然の経験となる事がある筈と思います。花園や野菜畠の荒れた跡、立木、庭木の損害のあとなどを、立てなほしたり、支えをしたりする事で、美しいものいたはりの情を培いましょう。日向の大きな種の部分は何時になつたら取れるのでしょうか。朝顔の残り咲きを救え、種の採集も計画しましょう。三才児は、見て歩いて、保母やお友達とお話する事にとまりましょうか。もつと大人の手伝いをする部面もありましょう。四、五才児は、分担の花園、畠、家畜小屋等に、積極的な関心といははりの情と、実行力を、保母のよりよい助言で示すでしょう。夏のいろ／＼な思い出は、展覧会の計画だけでなく、歌う事、踊る事、体の大きな動き等、メロデーに合せ、リズムに乗つて、話合いながら展開させられるでしょう。

海水浴行、山のばり、魚つり、エビガニさがし、めだかすくい、夕立雷様、蟬とり、ボートレース、河原バツタさがし等々。こうした遊びが、劇あそびへの発展のきつかけともなるかもしれません。たゞ注意したい事は、保母の真似をさせる事でなく、保母がその事を、幼児がする時の気持ちになつて、歌、動き、全身運動、聞く事、等のヒントを、幼児の中からひき出す役を上手にして頂きたいと思ひます。この思い出の遊びの中から、次に計劃する秋中の様々な、單元、目標の展開準備を計画する事が出来ましょう。

年少組の、高い段を登つたり、二人で手をつないでの上手な歩き

方、音への敏速な動きの反応等は、園外保育や、遠足の為に必要ですし、大きい組の人達は、運動会の構想のために、ヒントを得たり練習になつたり様々となりました。

大体、九月の保育所生活について概略をまとめてみました。一才から、三才迄の年少幼児について、健康、習慣、遊びについての秋の計劃はなければなりません。月々で経験を展開させると云うのでなく、個々の状態をみて考えられなければなりません。半日、つきつきりで、引っぱり遊びをするのでなく、年少幼児の中に身をおいて、じつと、そのなすがまゝを観る事です。一才児は、二才児は、どんな物でどんな風に遊んでいるか、そして、其処へ、何を加えてあげたら、体の為にも、心の為にも、より発達を助ける遊びが展開していくだろうか、と考えて頂きたいと思ひます。

個人々々の、生活習慣のつき具合、健康状態、運動、言語、情緒の現れの簡単なメモを作つておきましょう。

年少幼児、三才児の保育について、記録の事やメモ用紙、週案の様式等について考へている事は又別の機会にして、お互に、面倒でも、少々いやでも、何かと記録する事をおす、めいたします。

蒼天に向つて、幼児と共に胸を張り、声を張り上げて歌つても、話し、声は、秋風の様になわやかに、もの静かにありたいものです。

家庭の父母には、九月の保育のあらまし、休重増減の報告、健康と栄達の為の調査表等を考へて、それに家庭の意をよせて頂きますよう。

(筆者 江東橋保育園長)